

平成 27 年度（技術・家庭 技術分野）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第 1 学年	<p>説明、板書の方法やスピード、工夫 板書・提示の工夫 次の授業指示の体制</p> <p>改善傾向のあるものもあるが、さらなる指導方法の工夫、改善の必要がある。</p>	<p>立体のイメージ力向上 基礎技能の向上 基礎・基本の定着指導 （基本の繰り返し指導）</p> <p>実物をもっと多用し、視覚で捉える工夫。</p>	<p>進度差を埋めるために、授業内の時間の使い方や放課後のおよび長期休業日の時間などをうまく利用し、遅れている生徒の補充(補充製作)を行なう。 小テストの実施</p>
第 2 学年	<p>説明、板書のスピードや工夫 わかりやすい指示、提示 ねらい、評価を明示 学習のルールの徹底</p> <p>昨年の同学年の結果より、良い方向に上がっている。さらなる指導の工夫、改善を行う。</p>	<p>最も使う電気を日常生活とからめてエネルギー問題と関連付けて意識を高めていく。</p> <p>実生活に結び付く知識を柱にする。 授業規律を徹底する。</p>	<p>進度差を埋め、技能を確認しながら進める。そのために細かなチェックを設け、随時技能を確認しながら進行をしていく。 教材の中にオリジナリティを盛り込める部分を設定し、全体で共有できる場面を設ける。 プリント提出</p>
第 3 学年	<p>話し方や指示 明確な指示 課題や見本提示の工夫</p> <p>昨年の課題は昨年に続き改善方向にある。</p>	<p>コンピュータの実用性を理解し、活用できる力を付ける方向の授業内容を目指していく。また、栽培授業の内容について学習内容を精選させ充実化を図る。</p> <p>個人の力量差を考え、個別指導(巡回指導)を十分に行う。 ソフトウェア - の機能を十分に理解した上で、技能に応じて生徒が工夫し、考えて進める内容を考える。 授業数のカバーするためにプリントを活用していく。 授業内容のポイント化。 栽培植物の時期と種類の厳選(実が付いたりする興味を引くもの)</p>	<p>進度差を埋めるために、放課後等の時間を活用して、遅れている生徒の補充授業を行なう。 実技テストや小テストの実施</p>